

03かごしま住まいと建築展始まる

健康快適空間を演出



テープカットする協議会関係者  
＝鹿児島市のかごしま県民交流センターで

環境と住まいをテーマとする「03かごしま住まいと建築展」(県民交流センターに移し、大・中ホール、屋外等)が17日から3日間の日程で始まった。今年から会場を鹿児島市のかごしま県民交流センターに移し、オープニングセレモニーでは、同協議会長の加藤一県土木部長が「今

しも年々浸透し、省エネ、シックハウス、リサイクルなどについて着実な成果をあげつつある。このイベントが県民の快適で豊かな住まいづくり、街づくりのきっかけになることを祈念します」と挨拶。赤崎義則鹿児島市長代理の木村耕一助役も言葉を寄せた。

このあと、協議会の加藤会長、副会長の内村賢、県建築士協会会長、大原達也、県建築士事務所協会会長、平川純雄県土木部長、建築技監ら6人がテープカットをして大ホールを開場するとともに、各ホール・展示コーナーの一般公開を開始した。

大ホールは健康快適空間がテーマで、室内環境比較体験コーナーでは従

「かごしま環境共生住宅」(築総合センター主催)は17日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで開かれた。県民交流センターで開き、環境共生住宅の国内第一人者である岩村和夫、武蔵工業大学教授が、その取り組みと今後の方向性などについて講義した。

講義会では冒頭、安藤恒次県住宅課長が挨拶したあと、岩村氏は環境共生住宅が生まれた背景を解説。最近、総花的

「ISO 14001審査等説明会」地球環境フォーラム鹿児島(岩田三千生代表)は17日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで開かれた。県民交流センターで開き、市民団体による環境ISO取得や環境マネジメントシステムの概要、特長等を講義した。

説明会には関係者約40人が参加、塩川哲郎同フォーラム鹿児島理事長は「自

ISO 14001自己適合宣言+NPPO審査・認証登録は、①NPPOであるから審査・監査費用(20・30万円程度)が安い②地域に向けて積極的に広報支援する③地元企業を地元の市民団体が監査すること、お互いにより高い成長が期待できる④必要になれば、いつでも第三者認証の審査登録を受けるレベルを維持できる」など、市民団体「地球環境フォーラム鹿児島」は、審査登録機関に劣らない監査を行い、認証登録、環境方針や具体的取り組みを地域に広報、サポートする等としている。

中国の三峡ダムなど視察

一般廃棄物木くずリサイクル協会

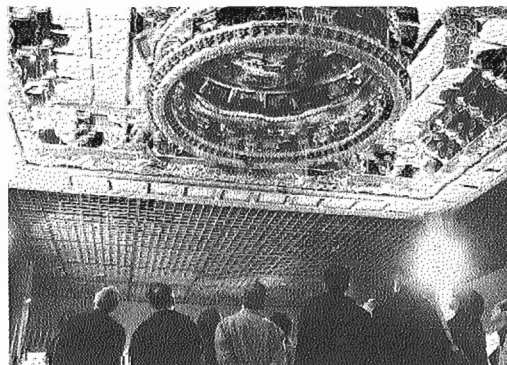
一般廃棄物木くずリサイクル協会(吉丸泰生会長)は11日から15日までの5日間、中華人民共和国の長江中流に建設中の三峡ダムや北京での緑化事業、建設機械展等を視察した。

鹿児島を11日にたった一行は、上海と武漢を経由して翌12日に湖北省宜昌市の三峡ダムを見学。ガイドの案内でダムを一望できる高台の展望所や展示資料館などを視察したほか、放水路の近く

では勢いよく放水される流水や対流する長江の様子に興味深く見入っていた。

三峡ダムは堤高185m、堤長約2.3km、貯水量約4億立方メートルの巨大ダムで、1994年に着工し、2009年の完成を目指している。総事業費は日本円にして約3兆円とも言われ、今年6月に第2期工事が終了し、貯水と発電の一部開始したほか、ダム上流と下流の水位落差を船が通るため

発展する中国の力強さ体感



水煙を上げる三峡ダムをバックに写真に納まる会員(上)と北京古代建築博物館内の作品を見上げる会員ら

のみならず日本企業などから出展された最新機械を見学。同国は2008年に開催される北京オリンピックに向けて施設や道路、ホテル、マンション等の建設が急ピッチで進められているほか、北京・上海間の新幹線建設

も近年中には着手されることから建設用重機等の需要は高く、会場内には多数の市民が見受けられた。会員らも自社で扱っている重機と展示された最新重機を比較するため、パンフレットを求めた。後世に伝えるためにも意義のある視察であったと感想を語った。



環境ISO導入について講義した説明会  
＝鹿児島市のかごしま県民交流センターで

建設業許可申請

変更届・資格審査申請・官公庁許可・登録申請手続き致します  
許認可コンサルタント

安田行政法務事務所

鹿児島市中央町5-41 TEL 252-8084  
トーカンマンション白雲602号 FAX 252-1144

自動振替で  
鹿児島建設新聞  
099-227-5100へ